

# 広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]  
(平成21年8月解析分)

## 1 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成21年8月分(平成21年8月3日～8月30日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	362	0.79	0.00	↑	10	百日咳	14	0.05	0.03	↓
2	RSウイルス感染症	24	0.08	0.05	↘	11	ヘルパンギーナ	745	2.60	0.98	↗
3	咽頭結膜熱	60	0.21	0.73	↘	12	流行性耳下腺炎	174	0.61	0.70	↘
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	145	0.51	0.49	↓	13	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.02	
5	感染性胃腸炎	801	2.80	3.14	↘	14	流行性角結膜炎	82	1.09	1.24	↘
6	水痘	115	0.40	0.52	↓	15	細菌性髄膜炎	4	0.05	0.02	
7	手足口病	181	0.63	1.01	↗	16	無菌性髄膜炎	8	0.10	0.08	
8	伝染性紅斑	19	0.07	0.17	↓	17	マイコプラズマ肺炎	24	0.29	0.24	→
9	突発性発しん	191	0.67	0.69	↘	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成21年8月分(8月1日～8月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	54	2.35	2.13	↘	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	131	6.24	5.58	→
20	性器ヘルペスウイルス感染症	15	0.65	0.72	→	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	33	1.57	1.08	↗
21	尖圭コンジローマ	18	0.78	0.55	→	25	薬剤耐性緑膿菌感染症	2	0.10	0.39	
22	淋菌感染症	25	1.09	1.00	→						

「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)  
報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

### 急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

急増疾患 インフルエンザ(111件 362件)  
急減疾患 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(331件 145件)  
急減疾患 水痘(365件 115件)  
急減疾患 伝染性紅斑(56件 19件)  
急減疾患 百日咳(34件 14件)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について,県内178の定点医療機関からの報告を集計し,作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	19～22	15～18, 23～25	
定点数	43	72	19	23	21	178

## 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	40	結核〔広島市保健所(14)、福山市保健所(4)、呉市保健所(7)、西部保健所(12)、東部保健所(3)〕
三類	21	腸管出血性大腸菌感染症(21) O157(19)〔広島市保健所(6)、福山市保健所(6)、西部保健所(1)、西部東保健所(2)、東部保健所(4)〕、O26(1)〔福山市保健所〕、O121(1)〔広島市保健所〕
四類	2	レジオネラ症〔福山市保健所、東部保健所〕
五類全数	11	後天性免疫不全症候群(4)〔広島市保健所〕、ウイルス性肝炎(B型)(3)〔福山市保健所(2)、東部保健所(1)〕、アメーバ赤痢(2)〔広島市保健所〕、急性脳炎(1)〔福山市保健所〕、劇症型溶血性レンサ球菌感染症(1)〔呉市保健所〕

## 3 新型インフルエンザ等感染症届出状況

報告数	疾患名(管轄保健所)
94	新型インフルエンザ(A/H1N1)(94)〔広島市保健所(30)、福山市保健所(5)、呉市保健所(5)、西部保健所(6)、西部東保健所(18)、東部保健所(22)、北部保健所(8)〕

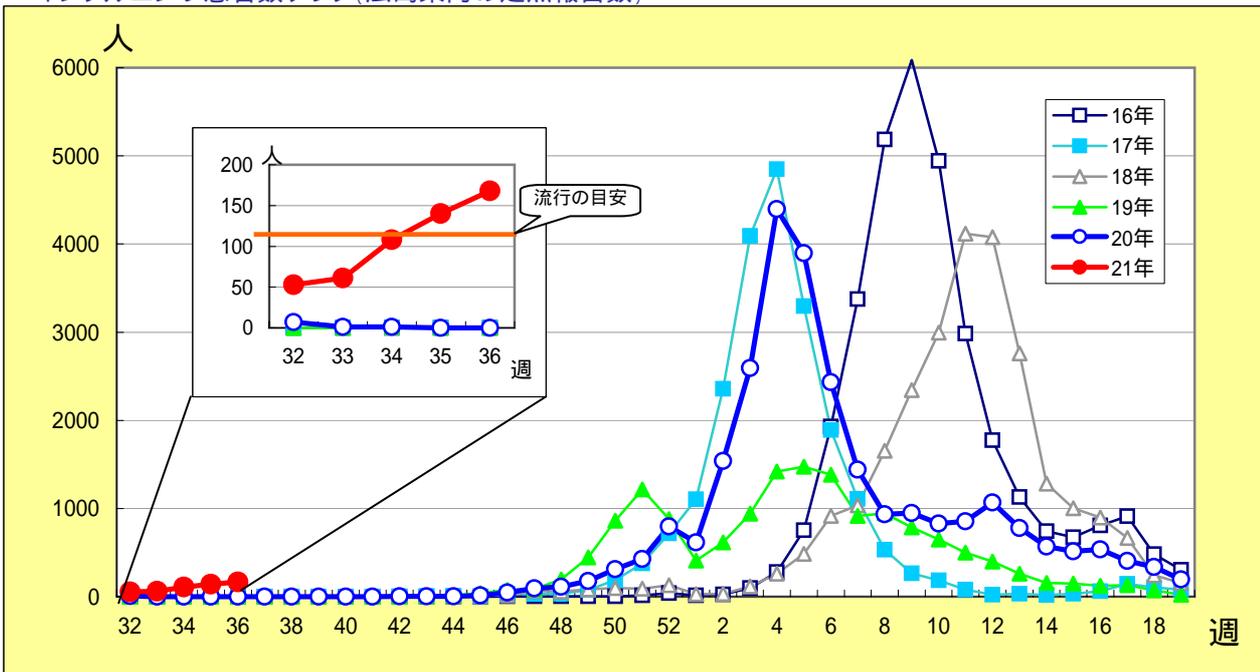
## 4 一般情報

### インフルエンザの流行開始について

平成21年35週(8月24日から8月30日)の定点医療機関(115医療機関)からのインフルエンザ患者報告数が、定点当たり1.22(患者数140人)となり、流行の目安としている1.0を上回りました。

現在発生しているインフルエンザのほとんどは、新型インフルエンザ(A/H1N1)と考えられるため、今般の新型インフルエンザについても、本格的な流行が始まっていると思われます。

インフルエンザ患者数グラフ(広島県内の定点報告数)



インフルエンザを予防するために次のような注意が必要です

- ・外出から帰ったときなどには、すぐに流水と石けんで手を洗い、うがいをしましょう。
- ・睡眠をしっかりととり、偏食せずバランスの取れた食事をし、体力をつけましょう。
- ・咳エチケット(咳・くしゃみの際にはティッシュなどで口と鼻を押さえ、周りの人から顔をそむけ、使用後のティッシュは、すぐにふた付きのごみ箱に捨てる。また、症状のある人は、マスクを正しく着用し、感染防止に努める。)を守りましょう。
- ・なるべく人が集まる場所への外出は避けましょう。
- ・症状などからインフルエンザが疑われる場合は、早めに医療機関を受診しましょう。特に基礎疾患(腎臓疾患、心臓疾患、呼吸器疾患等)を有する方や、妊婦、高齢者、乳幼児は合併症を起こしたり、重症化する恐れがありますので注意しましょう。
- ・医療機関を受診する場合は、あらかじめ医療機関に電話し、受診方法を確認してください。また、受診の際にはマスクを着用してください。